

ペット×医療ビッグデータ×「ペット用MA-T口腔ジェル」で疾患予防実現をめざす！

～将来的にヒト医療への展開も～



1. 犬は「ヒトの生活習慣病」における最適な自然発症モデル

ヒトにおける生活習慣病5選		犬の場合	
疾病名	好発年齢(※1)	発症年齢	平均有病率(※2)
心臓病	70歳以上	0歳から発症あり	3.4% *犬の主要な心臓病である「弁膜症」の数値
慢性腎臓病	60歳以上		1.2%
糖尿病	60歳以上		0.4%
がん	60歳以上		5.1% *「腫瘍性疾患」の数値
歯周病	30歳以上		4.0%

(※1)アニコムグループ調べ

(※2)アニコム損保において、犬:707,339頭の契約データを基に算出。動物年齢は未調整。

アース製薬×アニコムグループ

犬はヒトに最も近い生活環境の動物でありながら、ヒトと比較し病気の交絡因子が極めて少ない。また、ヒトであれば高年齢帯にて好発する歯周病やがんといった生活習慣病も、0歳から発症する。



疾病動態のメカニズムを解明するうえで、**犬は最適な自然発症モデル動物**

2. 医療発展の歴史は「見える化」の歴史 ～保険会社は社会的顕微鏡～

(1) 全身レベルの時代



(2) 臓器レベルの時代



(3) 細胞レベルの時代



(4) 分子レベルの時代



しかし、ミクロすぎて確率的議論が急増し全体が見えづらくなった

統計を扱う「保険会社」が重要

< 保険会社の役割 >

起きてしまった事故に対し
保険金を支払うことで
仮初めの「安心」と潜在的な「慢心」を生み出す

個別のデータからは見えない、
真の原因を、数を集め統計にすることで
「見える化」し、「予防」に繋げる。
「保険に入っていたから健康でいられた」を実現する。

< アニコムグループの方向性 >

**歯周病関連菌等が、口腔内を入り口として
血中/腸内へと入り込み、全身に巡ることで
万病の元となることを「見える化」していく。**

< ともに目指す未来 >

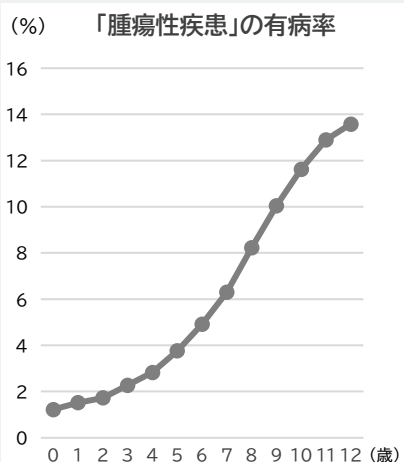
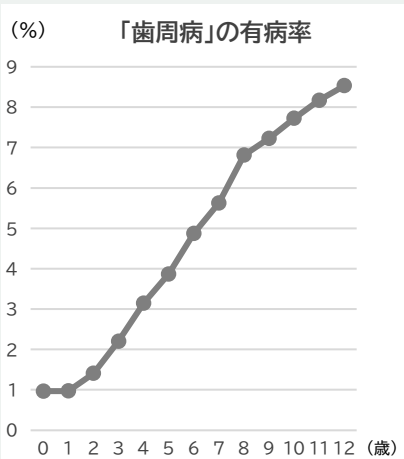
疾病動態メカニズムを「見える化」するとともに
「**ペット用MA-T口腔ジェル**」を通じた「予防」
を実現し、知見をヒト医療にも展開することで
すべての生命を、さらに「健康」にする。

歯周病関連菌がお腹にいると寿命が短くなる

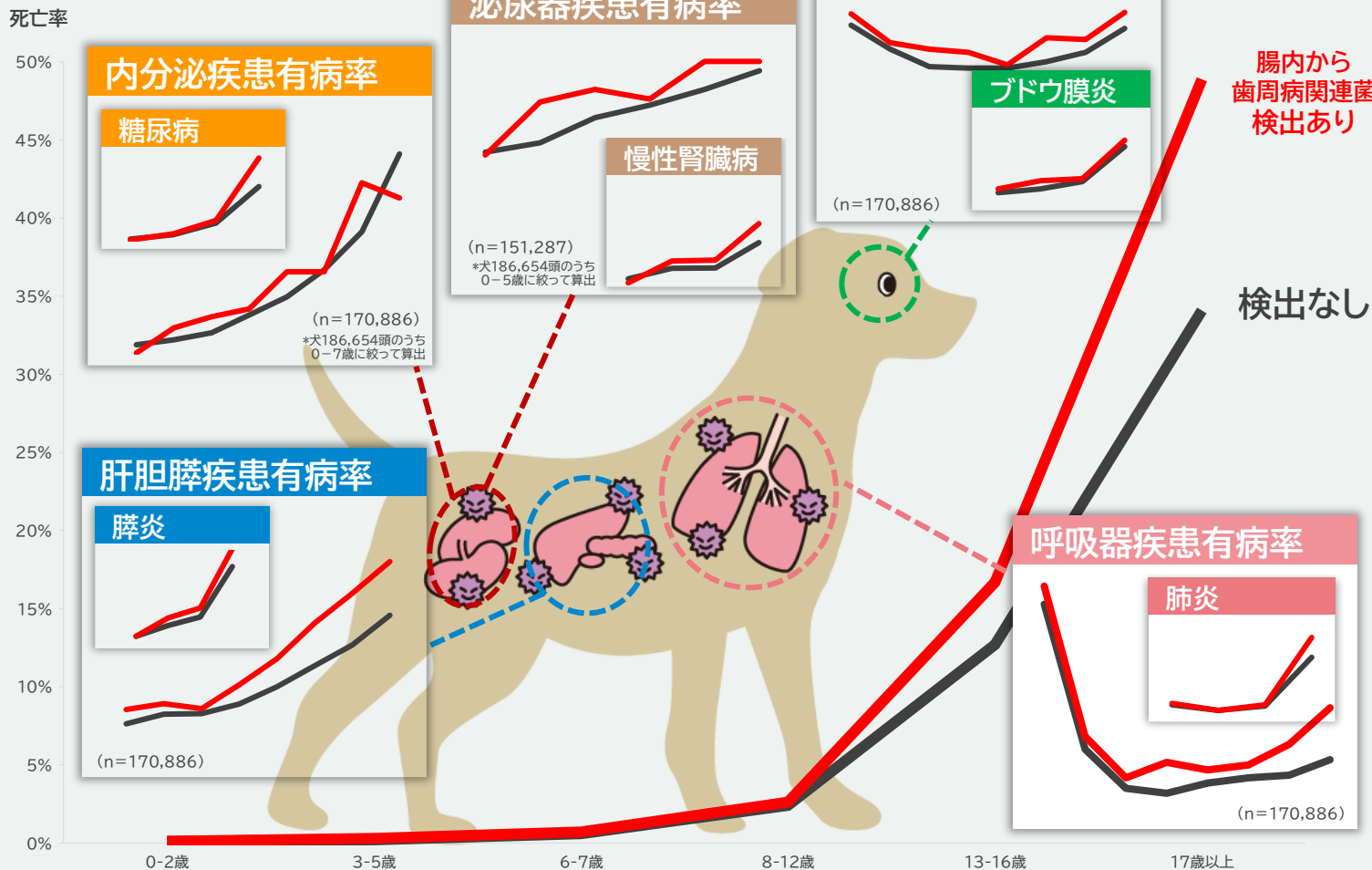
腸内細菌叢から歯周病関連菌が検出された群は、検出されない群と比べて早死にする傾向にあり、さらに各種疾病の有病率も高いことが判明した。



<参考>
犬における「歯周病」「腫瘍性疾患」の年齢別有病率
(N=707,339)



腸内から歯周病関連菌が検出された群/されない群における年齢別死亡率 (N=186,654)



腸内の歯周病関連菌の有無を確認する「腸内フローラ測定」キットは[こちら](#)から購入できます。(※)

※ 歯周病関連菌の検査サービス追加については2024/8/21以降よりスタート予定



アニコムグループ調べ